

# 『スピルリナ』って何？

藍藻(スピルリナ)の誕生は約30億年もの昔にさかのぼります。地球が誕生したのが約46億年前と言われており、その地球上に最初に出現した植物の一種がスピルリナだと言われています。そんな、はるか昔から生息しているスピルリナですが、ドイツのドゥルピン博士によって発見され命名されたのは意外に遅く、1927年です。



スピルリナ



しかし、藻類として発見される以前から、自生していた湖の周辺に住む原住民はスピルリナを食料として食べていたそうです。それなのに、なぜそんなに後になるまでスピルリナは発見されなかったのでしょうか？その秘密はスピルリナの生息条件にあるようです。

# 『スピルリナ』ってどこで育っているの？

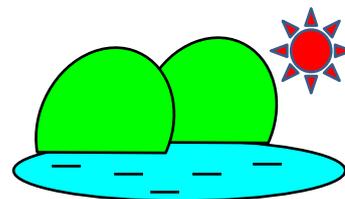
スピルリナの生息する湖は、高温・強アルカリという他の動植物が繁殖しにくい特殊な条件の下で、強い太陽光線をあびて育ちます。これらの条件を満たす湖では、他の微生物はとうてい住むことが出来ず、またこれらの条件を満たす湖は特定の場所にしか存在しません。そのために、スピルリナの発見が遅れたのではと言われています。

## 【スピルリナの生育条件】

1. 強い太陽光線
2. 強アルカリ性の湖
3. 水温30~35度

現在スピルリナの自生が確認されているのは、主に以下の熱帯地方の湖です。

チャド湖(チャド共和国)	ルドルフ湖(ケニア)
ヨアン湖(チャド共和国)	ナクル湖(ケニア)
アランガディ湖(エチオピア)	ナトロン湖(タンザニア)
チルチェ湖(エチオピア)	フッカチナ湖
エレメンティア湖(ケニア)	テスココ湖(メキシコ)



こうした特殊な成育環境では、雑菌などは住みにくく、それがスピルリナが今まで絶えることなく生き続けてこられた理由のひとつとも言われています。また、東アフリカの湖のスピルリナは、世界最大のピンクフラミンゴの生命を支える食料原となっています。ピンクフラミンゴが綺麗なピンク色をしているのはスピルリナに含まれるカロテノイドという色素が関連しているのです。実際、ピンクフラミンゴにみられるように、スピルリナを飼料に使うと金魚や錦鯉のウロコの深紅色がキレイになり、さらに、稚魚の死亡率を下げるとも言われており、今では、鯉の品評会などに入選するためには欠かせない栄養源だと言われています。

そんなことから、スピルリナは多くの生物に嬉しい食品といえるでしょう。

